

ARTSPACE

角 永 和 夫

By Dan R. Goddard,

May / June, 1989



Kazuo Kadonaga installation at Blue Star Art Space, San Antonio, Texas. Photo; Robert Chalk.

角永和夫は、コーパス・クリスティのサウス
テキサス美術館で始まった展示会で、原始林の
静寂と静寂をサンアントニオのブルースターア
ートスペースにもたらしめました。ミニマリズム
は、木、紙、竹、絹の彫刻で禅と「渋い」の日
本の概念を満たしています。自然の本質を明ら
かにしようと努める彼は、天然素材にわずかな
変更を加えるだけです。しかし、その結果は魔
法のように瞑想的であり、平和、調和、静けさ
を争いのある皮肉な世界に放射しています。

彼の家族は、杉林と製材所を所有している日

本の石川県に住んでいます。

最初に彼に国際的な注目を集めた仕事で、角
永はベニヤスライサーを使用して、杉の丸太（樹
皮を取り除いたもの）を一枚の紙ほど厚くない
長いストリップに切りました。次に、壊れやす
い細片が元の丸太の形で一緒に接着されました。
これは木の脆弱性についての微妙なコメントで
す。ツリーは作用を受け、その内部構造に従っ
て応答し続けます。それでも、介入にもかかわらず、
ログはその表面が風によって波打って
いても底が穏やかな湖のように、その落ち着き

を保ちます。 芸術家の欲望に合わせて造形する素材として、西洋美学の木材にアプローチするのではなく、自然の本質と調和する体験を表現したいという日本人の願いを反映した風格のある上品な作品を制作しています。

木は角永で最も広く使用されている素材です。彼は自分の目的が「木を見つめるさまざまな方法を探究することであり、木を当たり前のこととするのではない」と述べた。それはしばしばミニマルアートの還元的美学と関連しているが、角永の作品は中世の日本の概念の現代的な表現であり、 渋い。「渋みの味」と定義されることもある：渋いは貧困の時代に生まれた。

また、俳句、演劇なし、尺八（竹笛）の美的基盤でもあります。 マイケル・ローレンスのカタログエッセイによると、角永の態度は、日本の2つの最近の芸術運動、1950年代の具体的な運動、および後に、 西洋の「プロセス」アーティストと同様の方法。

角永はまた、「概念的なアーティストは合理主義者ではなく神秘主義者である」と観察したアメリカ人アーティスト、ソル・ルウィットの影響を認めています。

再構成された丸太に加えて、角永は幾何学的形状を樹皮を取り除いた丸太に切り分け、また丸太を分割して木目を明らかにしました。丸太を切る際に、彼は年輪などの木材の自然な線をたどることがよくあり、木材の固有の特性が彫刻の最終的な形状を決定できるようにします。彼は木が切られたときに「濡れている」と考え、乾燥の効果を高めようとします。 マスターポッターのように、彼は自分の個性の痕跡を残さず、代わりに木材を乾燥、拡張、分割して、自分の内的形態を明らかにしたいと考えています。彼は、スコアリングされたログの一方の端を叩いて、反対側の端でクラックを発生させる方法

を知っています。時々、彼は窯で焦がされた丸太を平行シリーズに並べます。木は、手製の紙（和紙）の原材料でもあり、角永は、積み重ねた湿ったシートを固いブロックに圧縮することによって、大きくて幾何学的な彫刻的な物体に成形します。次に、各繊細なシートを部分的に引き剥がし、硬度と柔らかさ、強さ、壊れやすさという素材の相反する可能性を再紹介します

しかし、最も注目されているのは、養蚕、生糸の生産、カイコの養殖に関する彼の最近の仕事です。桑の葉の伝統的な食事を提供しながら、彼は特別に構築されたグリッド状の杉のフレームに100,000ものカイコを放ち、それを操作して、ワームが各空の正方形を白い繭で埋めます。彼らの紡績は、シルク製造のように蒸気によって停止されます。その結果、繭の繊維は、出現する蛾によって破壊されません。角永の養蚕作品は時間を凍結し、天然素材だけでなく自然のプロセスの複雑さと不思議を明らかにします。彼の微妙な操作は、自然なオブジェクトのパターンと叙情性を、視聴者を自然な世界との直接かつ調和した対決にやさしく強制する方法で強化します。

Kazuo Kadonaga is represented by Space Gallery in Los Angeles.

Dan R. Goddard is art and drama critic for the San Antonio Express-News